

Citation: Khan RJK, Carey Smith RL. Surgical interventions for treating acute Achilles tendon ruptures. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 9. Art. No.: CD003674. DOI: 10.1002/14651858.CD003674.pub4.

CRG名: Cochrane Bone, Joint and Muscle Trauma Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 20 October 2009

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 9, Update

背景: 急性アキレス腱断裂の最良管理に関しては様々な意見がある。治療は外科的治療(観血的治療または経皮的治療)および非外科的治療(ギブス固定または機能的装具)におおまかに分類できる。

目的: 成人における急性アキレス腱断裂に対する外科的治療と非外科的治療、あるいは様々な外科的介入の相対的効果を比較・評価する。

検索戦略: Cochrane Bone, Joint and Muscle Trauma Group Specialised Register(2009年7月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ2009年第3号)、MEDLINE(1966年から2009年7月20日まで)、EMBASE(1966年から2009年29週目まで)、CINAHL(1983年から2007年7月まで)、および論文の参考文献リストを検索した。

選択基準: 成人における急性アキレス腱断裂に対する外科的治療と非外科的治療、あるいは様々な外科的方法を比較しているすべてのランダム化試験と準ランダム化試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが独自に適格である可能性のある試験を選択した;次に、10項目尺度を用いて試験の質の評価を行った。可能な場合にはデータをプールした。

主な結果: 844例の参加者を含む12件の試験を選択した。1件の試験は2つの比較を検証した。質評価は、多くの研究で方法論的厳格さのレベルが、特に割りつけの隠蔽化と評価者盲検化に関して低いことを示した。

観血的外科治療と非外科的治療の比較(6件の試験、536例の参加者)では再断裂のリスクが有意に低かった(リスク比(RR)0.41、95%信頼区間(CI)0.21~0.77)が、感染症(RR 4.89、95%CI 1.09~21.91)、癒着および皮膚感覚障害(しびれ感)などの他の合併症リスクは高かった。スポーツ活動などの機能状態は、標準化されていないアウトカム指標がしばしば用いられたなど、報告にばらつきがあり、しばしば不完全で、結果は決定的でなかった。観血的外科的修復術で経皮的修復術と比較して(4件の試験、174例の参加者)、感染症のリスクが高かった(RR 9.32、95%CI 1.77~49.16)。これらの数値については、参加者が少なかったため、注意して解釈すべきである。同様に、様々な腱修復技術に関して決定的な結論を導くことはできない(3件の試験、147例の参加者)。

レビューアの結論: 非外科的治療と比較した急性アキレス腱断裂の観血的外科的治療は、再断裂のリスクを有意に減じたが、創傷感染症などの他の合併症のリスクを有意に高めた。創傷感染症のリスクは経皮的に手術を行うことにより低下する可能性がある。

(監訳 林 啓一)

翻訳公開日: 2011年3月25日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。